

被災者支援体制の強化 特別委員会活動報告

(要旨)



調査テーマ

「被災者の命を守るための支援のあり方について」

南海トラフ地震が発生した際には、多くの方に災害関連死のリスクが生じるのが想定されています。

当委員会では、より多くの市民の命を守るため、個別避難計画の実効性強化、要配慮者支援の充実、避難所外避難者への情報提供とニーズ把握、避難者名簿のデジタル化、災害ケースマネジメントの導入などについて、調査研究を進めてまいりました。また、その一環として行った、先進地の視察やオンライン勉強会では、DX（デジタル技術）を活用した避難所受付や避難者情報管理について知識を深めることができました。当委員会では、これらを通し学んだ新たな支援方法を取りまとめ、半田市に提言しました。

市への提言（抜粋）

一、DX(デジタル技術)を活用した避難所受付及び避難者名簿管理の仕組みを整備し、避難所外避難者を含めたすべての避難者の安否及び支援ニーズを迅速に把握し、庁内及び関係機関において情報共有できる体制を構築すること。

一、行政、地域団体、当事者、医療関係者、民間事業者等が災害時要援護者の支援体制及び課題を平時から共有・協議するための対話の場を整備し、定期的に協議を行うこと
好事例は横展開して市内全域に広げよう。

一、半田市避難行動要支援者支援指針を作成し、広く市民に周知すること、市民の自助・共助の意識の向上を図ること。また、自治区及び自主防災会等において当該指針を活用した防災訓練が実施されるよう、相談支援専門員や介護支援専門員からの声掛けによる当事者の参画を促進し、自治会長・民生児童委員等との顔合わせを行い、個別避難計画と避難行動要支援者名簿の実効性を検証すること。

一、災害ケースマネジメントの導入に向け、平時の重層的支援体制整備事業のスキームを活用して、災害時に個別支援へと拡張できる仕組みの構築について、ふくしまるごと会議等において検討を開始すること。



ボールパーク構想調査
特別委員会活動報告

(要旨)



調査テーマ

「スポーツ振興によるまちづくりについて」

少子高齢化の進行による財政制約の強まりを背景に、公共施設は「建てる・直す」という発想から、「どのような価値を生み続けるか」という経済的視点での検討が強く求められています。また近年では、スケートボードやブレイキンなど新たなスポーツが広まり、楽しみ方も競技にとどまらず観戦やレクリエーションへと多様化しています。

半田市においては現時点でボールパーク構想の具体的な検討は行われていませんが、当特別委員会では、将来を見据え、スポーツを起点に人の流れを生み、地域経済の活性化や市民の健康増進、シビックプライドの醸成につながる「まちづくりの核」としての可能性を検討することとしました。また、この可能性については、複数の先進的な取り組みを行っている自治体への視察及び文書照会により20年30年先を見据えた施設整備（ハード）と運営体制（ソフト）の両面から鋭意調査してまいりました。

当委員会からの提言を踏まえた市民の視点に立った丁寧な検討と、将来を見据えた具体的かつ早期の取り組みを期待しています。

市への提言

一、行政・民間・関係団体・観光・商工等の各分野を横断的につなぎ、地域の資源をスポーツに結びつける「司令塔」の必要性を認識したスポーツコミッション※を設立し、まちづくりの核とした中長期的なビジョンを策定すること。

二、スポーツ施設の整備にあたっては、市民ニーズを把握するとともに、活用・運営・誘致を担う主体や戦略を先行し、その機能に基づいた運営戦略を推進すること。

※スポーツコミッションとは地方公共団体、スポーツ団体、民間企業等が一体となり、スポーツによるまちづくり、地域活性化を推進していく組織の総称

